

様式第2号

会 議 録	
会議の名称	第2次忠岡町子ども読書活動推進計画策定委員会(第2回)
開催日時	令和7年12月22日(月)16時00分から17時00分
開催場所	忠岡町役場 2階 健康講座室
公開の可否	可
事務局(担当課)	教育部教育課
傍聴者数	0名
非公開の理由	
出席委員	別紙議事録のとおり
会議の議題	別紙議事録のとおり
配付資料	別紙議事録のとおり
会議の内容	別紙議事録のとおり

## 会議録

- 会議名 第2次忠岡町子ども読書活動推進計画策定委員会（第2回）
- 日時 令和7年12月22日（月）16時00分から17時00分
- 場所 忠岡町役場 2階 健康講座室
- 出席者

### 策定委員会委員

委員長 柏原 憲一  
副委員長 石本 秀樹  
委員 泉 亜希  
委員 田口 順  
委員 小山 昌二  
委員 吉川 尚美  
委員 道口 康子  
委員 加納 優美

### 事務局

教育委員会教育部教育課長 伊藤 真  
教育委員会教育部教育課主査 久貞 太公

- 傍聴者数 0名
- 会議録署名委員 小山委員、道口委員

### ■ 議事

1. 第2次忠岡町子ども読書活動推進計画素案について

### ■ 配布資料

1. 【資料1】第2次忠岡町子ども読書活動推進計画素案

■会議の内容

発言者	発言の要旨
事務局	<p>皆さま本日は、何かとご多忙のところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>只今より第2次忠岡町子ども読書活動推進計画策定委員会を開催させていただきます。</p> <p>( 開会 16時00分 )</p> <p>それでは、当委員会の成立について申し上げます。当委員会設置要綱第6条第2項の規定により当委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開けないとなっております。本日の出席状況につきましては、委員数10名中8名のご出席で、過半数を超えておりますので、会が成立していることをご報告いたします。</p> <p>当委員会の公開、非公開について、別紙の忠岡町審議会等の会議の公開に関する指針3で会議は原則公開となっておりますので、公開とさせていただきますのでよろしくお願い致します。</p> <p>なお、本日の傍聴の申し出はございません。</p> <p>それでは、柏原委員長より、ご挨拶をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
柏原委員長	<p>皆さま、本日はお忙しい中、「第2回 第2次忠岡町子ども読書活動推進計画策定委員会」にご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日は、第2次忠岡町子ども読書活動推進計画の素案についてご協議いただくこととなっており、計画の方向性や内容について、委員の皆さまからご意見をいただく大切な会議となります。</p> <p>今回の素案では、第1次計画の取組を振り返るとともに、アンケート調査の結果などから、子どもたちが小さい頃は本に親しんでいるものの、学年が上がるにつれて読書から離れていく傾向があることが、あらためて明らかになっています。</p> <p>一方で、もともと「読書が好き」と感じている子どもが多いという点は、非常に前向きに捉えられる結果でもあります。</p> <p>行政として、また地域全体として、どのような工夫や仕組みづく</p>

事務局	<p>りができるのかが、今回の計画の大きなポイントになるのではないかと考えています。</p> <p>本日は、素案の段階ですので、表現の分かりやすさや構成、取組の実現性なども含めて、率直なご意見をいただければと思います。限られた時間ではありますが、活発なご議論をいただき、よりよい計画につなげていければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日の資料のご確認をお願いします。</p> <p>まず、本日の次第が1枚、別紙の「第2次忠岡町子ども読書活動推進計画素案」以上ですが、不足等はございませんか。</p> <p>それでは、これからの議事進行についてですが、当委員会要綱第6条第1項の規定により、委員長が委員会の議長となることとなっております。</p> <p>これからの委員会の進行につきましては、柏原委員長にお願いしたいと思います。それでは柏原委員長、議事進行をよろしくお願いいたします。</p>
柏原委員長	<p>ただ今から議事進行を務めさせていただきます。</p> <p>まず、本日の会議録署名委員を、委員長の指名としてご異議ございませんか。</p> <p>ご異議がないので、小山委員・道口委員にお願いいたします。</p> <p>それでは、「案件1. 第2次忠岡町子ども読書活動推進計画の素案について」、事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>それでは、「第2次忠岡町子ども読書活動推進計画（素案）」について、お手元の資料に沿ってご説明いたします。</p> <p>まず、計画全体の構成についてご説明します。目次をご覧ください。本計画は、第1章「計画の基本的な考え方」、第2章「子どもの読書活動の現状と課題」、第3章「子どもの読書活動推進のための方針」、第4章「重点的施策とその方向性」、第5章「取組の実施体制・連携」、第6章「成果の見える化・フォローアップ」の構成となっております。</p> <p>それでは、主な内容について順にご説明します。資料2～3ページの第1章をご覧ください。</p>

ここでは、読書活動を推進する意義や、国・大阪府の動向との関係、そして本町における読書活動の現況と社会情勢の変化について整理しています。

本計画は、国の「第五次子どもの読書活動推進基本計画」や、大阪府の「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」との整合を図りながら、町の実情に応じて策定していることを示しています。

続いて、資料4～7ページの第2章をご覧ください。

ここでは、第1次計画に基づく取組として、ブックスタート事業や、図書館・学校・就学前施設・児童館による読み聞かせ活動などを実施してきたことを整理しています。

一方で、町立図書館の児童図書貸出冊数や利用者数が減少していること、アンケート調査において、学年が上がるにつれて読書への関心が低下していることなど、現状と課題を明らかにしています。

これらを踏まえ、年齢が上がるにつれて進む読書離れや、家庭・地域での読書支援の弱まりなど、5つの課題を整理しています。

続いて、資料8～9ページの第3章をご覧ください。

本計画では、「すべての子どもが本と出会い、心豊かに成長できるまち」を目標とし、①多様な子どもが本に親しめる環境づくり、②読書活動の魅力発信と意識啓発の充実、③ICT時代に対応した読書活動と地域連携の推進、この3つを基本方針として掲げています。

あわせて、目指す姿と成果指標を設定し、主な成果指標として、読書が「好き」と回答した児童・生徒の割合、本を読まないと回答した児童・生徒の割合を用いて、計画の進行管理を行うこととしています。

続いて、資料10～12ページの第4章をご覧ください。

ここでは、家庭での読み聞かせの推進や、地域ぐるみの読書活動、図書館・学校図書館を中心とした読書環境の整備など、重点的に取り組む施策を整理しています。

また、発達段階に応じた支援や、障がいのある子ども、外国籍児童など、多様なニーズへの対応、あわせて紙の本と電子書籍の活用についても検討していくこととしています。

<p>柏原委員長 吉川委員</p>	<p>次に、資料 13～14 ページの第 5 章をご覧ください。</p> <p>ここでは、計画を着実に進めるため、教育委員会を中心とした推進体制を整え、「忠岡町子ども読書活動推進会議」を設置することとしています。学校・家庭・地域・図書館が連携し、それぞれの役割を担いながら、町全体で読書活動を進めていきます。</p> <p>次に、資料 15～16 ページの第 6 章をご覧ください。</p> <p>計画の進捗状況については、年次評価・中間評価・最終評価を行い、PDCA サイクルにより継続的な改善を図ります。</p> <p>成果指標については、数値やグラフなどにより見える化しています。</p> <p>最後に、参考資料として 18 ページ以降に掲載しているアンケート調査についてです。</p> <p>本計画の策定にあたっては、就学前施設、小学校、中学校を対象に、子どもや保護者へのアンケート調査を実施しました。その結果、年齢が上がるにつれて読書離れが進んでいることや、家庭での読書習慣が弱まっている状況、また一方で、電子書籍の利用が一定程度広がっていることなどが明らかになりました。</p> <p>これらのアンケート結果は、第 2 章の現状分析や課題整理、そして第 3 章以降の施策検討の基礎資料として活用しています。</p> <p>以上が、「第 2 次忠岡町子ども読書活動推進計画（素案）」の概要です。</p> <p>今後、翌年の 1 月から 2 月にかけてパブリックコメントを行う予定です。</p> <p>ワーキンググループについて、第 3 回目は翌年 2 月の開催予定となっております。</p> <p>議会については、翌年 3 月議会において計画案を報告する予定となっております。</p> <p>そして、3 月教育委員会会議において議決いただく予定となっております。</p> <p>本日のご意見を踏まえ、計画内容をさらに検討してまいりますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>説明は以上です。何かご質問等ございませんか。</p> <p>14 ページ冒頭に記載の「学校および図書館担当教員が、司書教</p>
-----------------------	--

事務局	<p>論・学校司書と定期的に情報交換を行う」との記述について、現在の学校の状況としては、司書教諭の資格を有する教員が、学校や図書館業務を担当しているケースが多く、本校では1名体制となっています。そのため、「定期的」とある場合、想定されている具体的な開催頻度について、あらかじめ学校の状況も含めてご説明いただければと思います。</p> <p>また、学校司書につきましても、時間単位での勤務形態であるため、定期的な会議への参加が難しい場合があります。この点についてもご理解いただければ幸いです。</p> <p>なお、「定期的」とは、どの程度の頻度を想定されているのでしょうか。</p> <p>本計画の進捗管理を行うために「推進会議」を設置することを章内で記載していますが、来年度以降は、現在のワーキンググループを発展させる形で「推進会議（推進委員会）」として設置する予定です。開催回数については現時点では未定ですが、年1～2回程度を想定しています。</p>
小山委員	<p>司書教諭については、学校図書館に深く関わっているというイメージがありますが、実際には学校の事情により、必ずしも司書教諭が配置されていない場合もあります。図書担当教員は必ず配置されていますが、その担当者が司書教諭である場合とそうでない場合があります。</p> <p>そのため、「司書教諭が必ず会議に出席する」といった表現は実情にそぐわない可能性があると感じました。担当教員や学校司書が不在の場合も想定されることから、「等」といった表現を用いるなど、「司書教諭」という文言を限定的にしない記載とする方が適切ではないかと考えます。</p>
事務局	<p>ご指摘を踏まえ、記載内容を修正いたします。</p>
小山委員	<p>15 ページの成果指標についてですが、数値が多いほど成果があるという理解でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。現状と比較し、年ごとの変化を確認していく形としています。</p>
小山委員	<p>「読書が好きかどうか」といった項目は定性的評価となり、「読まない」という項目は実施の有無を問う定量的評価になるかと思</p>

事務局	います。貸出冊数などの数値化は難しい面もあるため、今回はこのような指標設定としているという理解でよろしいでしょうか。
小山委員	はい、そのとおりです。
事務局	成果指標として示されている現状値について、その根拠が分かりにくいため、記載していただきたいと思います。
事務局	ご指摘のとおり、記載いたします。全国学力・学習状況調査には読書に関する直接的な指標がないため、アンケート結果の数値を引用しています。
吉川委員	学校現場ではアンケートの実施回数が多く、児童生徒の負担も大きいため、可能であれば教育委員会でアンケートを集約し、学校に依頼していただけるとありがたいです。
事務局	教育委員会内で調整し、可能な限り対応できるよう検討します。
小山委員	今回のアンケートは紙で配布されていましたが、今後はどのような方法を予定していますか。
事務局	今後はオンライン調査も検討しており、学校と連携しながら、より良い方法での回収を目指します。今回は昨年末に学校へ依頼し、その結果を引用しています。
泉委員	17 ページのアンケート結果について、回答者数と併せて対象者数も記載した方がよいのではないのでしょうか。対象者のうち、どの程度の方が回答したのか（回答率）が分かることで、調査の妥当性がより明確になると考えます。
事務局	対象者数を確認のうえ、記載するようにします。
小山委員	3 ページ末尾の「子どもたちが安心して読書に親しむことができる環境づくり」という表現についてですが、「安心」よりも「楽しく」などの表現の方が適切ではないのでしょうか。
事務局	ご指摘を踏まえ、表現を見直します。
田口委員	18 ページのアンケート結果について、設問2「よく読む本の種類」は、項目順ではなく、回答数の多い順に並べた方が見やすいと思います。
事務局	修正いたします。また、複数回答の設問については円グラフではなく棒グラフに変更します。
田口委員	6 ページ2 番の「保護者自身の読書習慣が低下しており」という表現について、「低下」はやや強い印象を与えるため、「減少」など、

事務局 田口委員	<p>よりやわらかい表現に変更した方がよいのではないのでしょうか。 表現を見直します。</p>
事務局	<p>10 ページの施策の語尾について、「高めます」「整備します」「検討します」など、文末表現を統一した方が読みやすいと思います。</p>
事務局 吉川委員	<p>語尾を統一します。 また、10 ページ①の文章構成について、箇条書きの位置関係が分かりづらいため、表記を統一して整理します。</p>
事務局 吉川委員	<p>8 ページの「国籍の違いを超えて」という表現や、12 ページの「外国籍児童」という表現については、配慮の観点から別の言い回し（「誰もが」「多様な背景を持つ子ども」など）への変更を検討していただければと思います。</p>
事務局 吉川委員	<p>表現を再検討します。 9 ページの対象年齢について、「0～18 歳」とありますが、15 歳以上についてはデータが取得できていないため、「15 歳程度まで」など、実態に即した表現も検討の余地があるのではないのでしょうか。</p>
事務局 柏原委員長	<p>国や府の基準も踏まえ、確認のうえ検討します。 本日いただいたご意見を踏まえ、修正した案を改めて委員の皆さまに共有したうえで、パブリックコメントに進めたいと考えています。 その際、追加のご意見があれば、改めてご指摘いただければ幸いです。</p>
事務局	<p>他に何かご質問等ございませんか。他にないようですので、以上をもちまして、本日の会議に提出いたしました案件は、すべて終了いたしました。ご協議ありがとうございました。あとは事務局よろしく申し上げます。</p> <p><b>【委員長 議事進行終了】</b></p> <p>議事進行、どうもありがとうございました。 委員の皆さまにおかれましては、ご多用のところ本策定委員会にご出席いただきありがとうございました。 これをもちまして、第2回策定委員会を閉会いたします。 有難うございました。</p>